

母子保健計画について

1. 国の協議状況について

「健やか親子21」の最終評価等に関する検討会 8回開催（平成26年3月5日まで）

(1) 現行計画と次期計画における課題

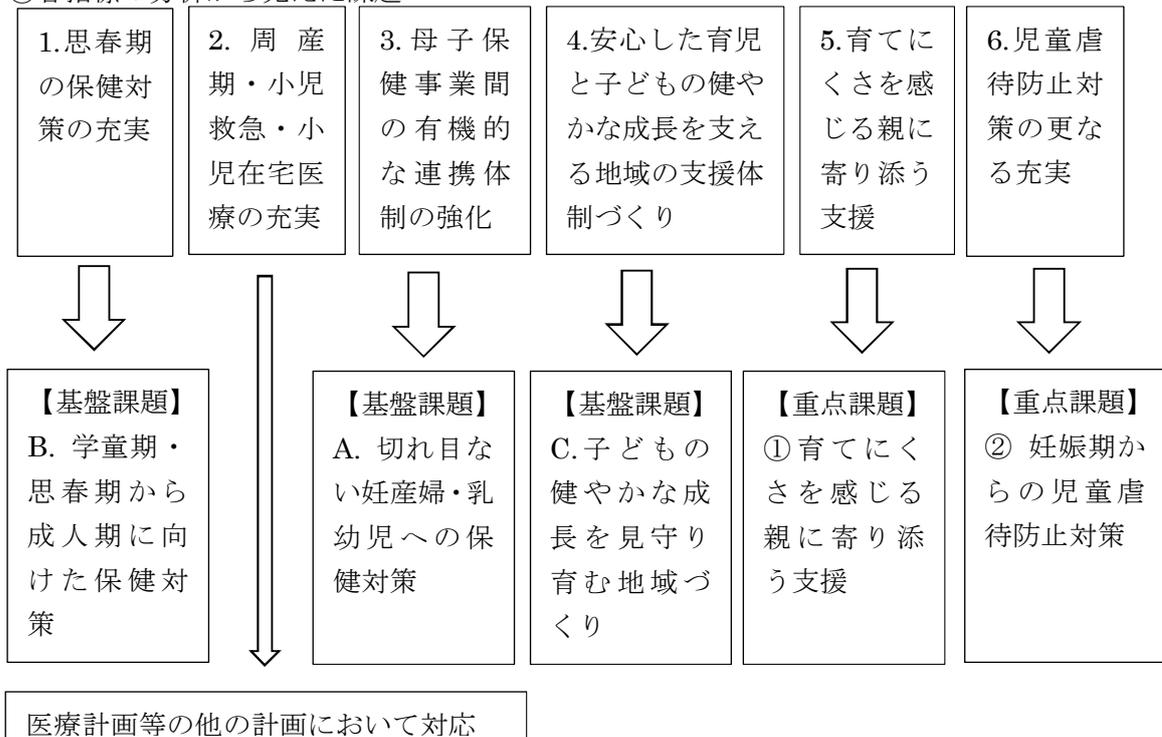
① 現行計画の主要課題

1. 思春期の保健対策の強化と健康教育の推進	2. 妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援	3. 小児保健医療水準を維持・向上させるための環境整備	4. 子どもの心の安らかな発達の促進と育児不安の軽減
------------------------	-------------------------------	-----------------------------	----------------------------

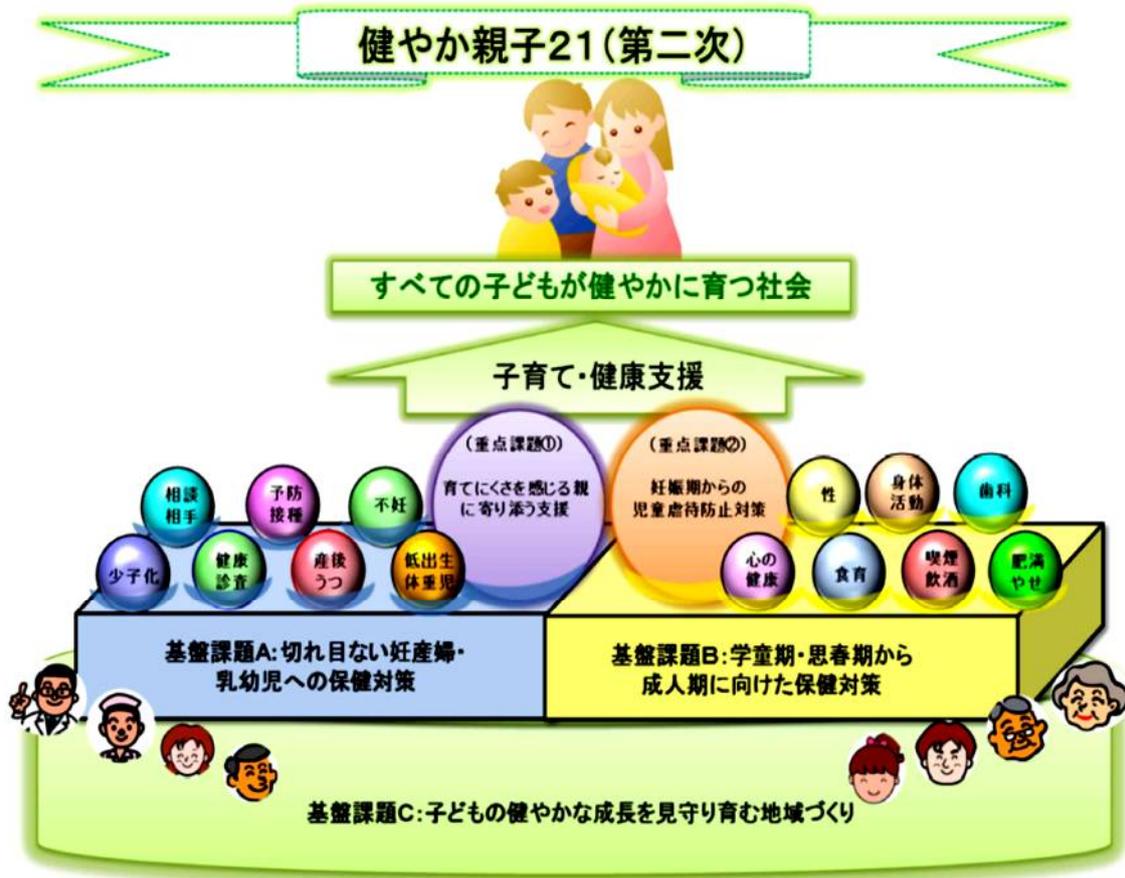
② 課題別の指標の達成状況

		課題1	課題2	課題3	課題4	項目計
改善した	目標を達成した	4	7	8	1	20
	目標に達していないが改善した	9	6	16	9	40
変わらない		1	1	1	5	8
悪くなっている		1	0	1	0	2
評価できない		1	0	0	3	4
計		16	14	26	18	74

③ 各指標の分析から見えた課題



(2) 「健やか親子21」次期計画の全体イメージ図



(3) 全体目標

健やか親子21（第二次）の10年後に目指す姿

「すべての子どもが健やかに育つ社会」

(4)課題ごとの目標・指標等

【基盤課題A】切れ目ない妊産婦・乳幼児への保健対策

(説明) 妊娠・出産・育児期における母子保健対策の充実に取り組むとともに、各事業間や関係機関間の有機的な連携体制の強化や、情報の利活用、母子保健事業の評価・分析体制の構築を図ることにより、切れ目ない支援体制の構築を目指す。

(目標) 安心・安全な妊娠・出産・育児のための切れ目ない妊産婦・乳幼児保健対策の充実

(指標名)

健康水準の指標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 妊産婦死亡率 2. 全出生数中の低出生体重児の割合 3. 妊娠・出産について満足している者の割合 4. むし歯のない3歳児の割合
健康行動の指標	<ol style="list-style-type: none"> 5. 妊娠中の妊婦の喫煙率 6. 育児期間中の両親の喫煙率 7. 妊娠中の妊婦の飲酒率 8. 乳幼児健康診査の受診率(重点課題②再掲) 9. 小児救急電話相談(#8000)を知っている親の割合 10. 子どものかかりつけ医(医師・歯科医師など)を持つ親の割合 11. 仕上げ磨きをする親の割合
環境整備の指標	<ol style="list-style-type: none"> 12. 妊娠届出時にアンケートを実施する等して、妊婦の身体的・精神的・社会的状況について把握している市区町村の割合(重点課題②再掲) 13. 妊娠中の保健指導(母親学級や両親学級を含む)において、産後のメンタルヘルスについて、妊婦とその家族に伝える機会を設けている市区町村の割合 14. 産後1か月でEPDS9点以上を示した人へのフォロー体制がある市区町村の割合 15. ハイリスク児に対し保健師等が退院後早期に訪問する体制がある市区町村の割合 市町村のハイリスク児の早期訪問体制構築等に対する支援をしている県型保健所の割合 16. 乳幼児健康診査事業を評価する体制がある市区町村の割合 市町村の乳幼児健康診査事業の評価体制構築への支援をしている県型保健所の割合

【基盤課題B】学童期・思春期から成人期に向けた保健対策

(説明) 児童生徒自らが、心身の健康に関心を持ち、より良い将来を生きるため、健康の維持・向上に取り組めるよう、他分野の協働による健康教育の推進と次世代の健康を支える社会の実現を目指す。

(目標) 思春期の心身の健康の大切さを知り、夢の実現のために自ら健康の向上に努め、それを支える社会の実現

(指標名)

健康水準の指標	1. 十代の自殺死亡率 2. 十代の人工妊娠中絶率 3. 十代の性感染症罹患率 4. 児童・生徒における痩身傾向児の割合 5. 児童・生徒における肥満傾向児の割合
健康行動の指標	6. 十代の喫煙率 7. 十代の飲酒率 8. 朝食を欠食する子どもの割合 9. 歯肉に炎症がある十代の割合
環境整備の指標	10. 学校保健委員会を開催している小学校、中学校、高等学校の割合 11. 地域と学校が連携した健康等に関する講習会の開催状況

【基盤課題C】子どもの健やかな成長を見守り育む地域づくり

(説明) 社会全体で子どもの健やかな成長を見守り、子育て世代の親を孤立させないように支えていく環境づくりを目指す。具体的には、国や地方公共団体による子育て支援施設の拡充に限らず、地域にある様々な資源（NPOや民間団体、母子愛育会や母子保健推進員等）との連携や役割分担の明確化があげられる。

(目標) 妊産婦や子どもの成長を見守り親子を孤立させない社会

(指標名)

健康水準の指標	1. この地域で子育てをしたいと思う親の割合 2. 妊娠中、仕事を続けることに対して職場から配慮をされたと思う就労妊婦の割合
健康行動の指標	3. マタニティマークを妊娠中に使用したことのある母親の割合 4. マタニティマークを知っている国民の割合 5. 主体的に育児に関わっていると感じている父親の割合
環境整備の指標	6. 乳幼児健康診査の未受診者の全数の状況を把握する体制がある市区町村の割合 市町村の乳幼児健康診査の未受診者把握への取組に対する支援をしている県型保健所の割合 7. 育児不安の親のグループ活動を支援している市区町村の割合 8. 母子保健分野に携わる関係者の専門性の向上に取り組んでいる地方公共団体の割合

【重点課題①】育てにくさを感じる親に寄り添う支援

(説明) 親子が発信する様々な育てにくさ(※)のサインを受け止め、丁寧に向き合い、子育てに寄り添う支援の充実を図ることを重点課題の一つとする。

(※) 育てにくさとは：子育てに関わる者が感じる育児上の困難感で、その背景として、子どもの要因、親の要因、親子関係に関する要因、支援状況を含めた環境に関する要因など多面的な要素を含む。育てにくさの概念は広く、一部には発達障害等が原因となっている場合もある。

(目標) 親や子どもの多様性を尊重し、それを支える社会

(指標名)

健康水準の指標	1. ゆったりとした気分で子どもと過ごせる時間がある母親の割合 2. 育てにくさを感じたときに対処できる親の割合
健康行動の指標	3. 子どもの社会性の発達過程を知っている親の割合 4. 発達障害を知っている国民の割合
環境整備の指標	5. 発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援体制がある市区町村の割合 市町村における発達障害をはじめとする育てにくさを感じる親への早期支援の取組を支援している県型保健所の割合

【重点課題②】妊娠期からの児童虐待防止対策

(説明) 児童虐待を防止するための対策として、①発生予防には、妊娠届出時など妊娠期から関わるのが重要であること、②早期発見・早期対応には、新生児訪問等の母子保健事業と関係機関の連携強化が必要であることから重点課題の一つとする。

(目標) 児童虐待のない社会の構築

(指標名)

健康水準の指標	1. 児童虐待による死亡数 2. 子どもを虐待していると思う親の割合
健康行動の指標	3. 乳幼児健康診査の受診率(基盤課題A再掲) 4. 児童虐待防止法で国民に求められた児童虐待の通告義務を知っている国民の割合 5. 乳幼児揺さぶられ症候群(SBS)を知っている親の割合
環境整備の指標	6. 妊娠届出時にアンケートを実施する等して、妊婦の身体的・精神的・社会的状況について把握している市区町村の割合(基盤課題A再掲) 7. 対象家庭全てに対し、乳児全戸家庭訪問事業を実施している市区町村の割合 8. 養育支援が必要と認めた全ての家庭に対し、養育支援訪問事業を実施している市区町村の割合 9. 特定妊婦、要支援家庭、要保護家庭等支援の必要な親に対して、グループ活動等による支援(市町村への支援も含む)をしている県型保健所の割合 10. 要保護児童対策地域協議会の実務者会議、若しくはケース検討会議に、産婦人科医療機関の関係職種(産婦人科医又は看護師や助産師)が参画している市区町村の割合 11. 関係団体の協力を得て、児童虐待に関する広報・啓発活動を実施している地方公共団体の割合 12. 児童虐待に対応する体制を整えている医療機関の数

2. 今後の予定

年度内を目途として、次期計画を策定する。

第9回 3月下旬 次期計画報告書(案)とりまとめ